

序

三徳山^{みとくさん}は、特殊な地形や希少な植生分布など豊かな自然が育まれ、古くから山岳信仰の霊場として栄えました。三徳山は、明治37年、三徳山三佛寺^{さんぶつじ}の建造物・彫刻・工芸品等6件が国宝に指定され、その後、昭和9年、三徳山が名勝及び史跡に、昭和12年、小鹿溪^{おしかけい}が名勝にそれぞれ指定されました。平成26年には大山隠岐^{だいせんおき}国立公園にも編入され、平成27年には日本遺産に認定されました。

三朝町では、平成14年度から世界遺産登録運動に取り組み、平成19年度文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会の審査結果「顕著な普遍的価値の証明が不十分」、「比較研究を進め、適切な主題設定や資産構成について検討」との指摘を受け、さらに三徳山歴史遺産調査を継続実施してきました。

今回の調査報告書は、三徳山三佛寺奥院^{おくのいん}投入堂^{なげいれどう}の修理棟札に記されている南座^{なんざ}（神倉^{かんのくら}地内）の調査であり、遺物がほとんどなく、遺構の特定と価値付けにたいへん苦慮する遺構調査であったと考えます。神倉冠巖^{かんむりいわ}周辺の踏査に始まり、平成26年度からは三徳山南座（名勝及び史跡三徳山と名勝小鹿溪との間の地域）の遺構調査に取り組み、ようやく、調査成果をまとめることができました。

世界遺産としての価値はもとより、日本遺産の文化財的価値の向上に、引き続き努めてまいりたいと存じます。

三徳山は、地域の人びとの厚い信仰とたゆまぬ努力によって、千年以上にわたり自然・文化が守られてきました。現代に生きる私たちもまた、三徳山の文化的価値と自然環境をよく理解し、その姿を後世へと伝えていかなければなりません。

これまで、ご指導、ご助言いただきました文化庁、鳥取県をはじめ、調査に協力いただいた土地所有者の皆様、地域の皆様に衷心より厚く感謝申し上げます。

令和7年3月

三朝町教育委員会

教育長 西田 寛 司

例 言

- 1 本書は、国・鳥取県の補助を受けて三朝町教育委員会が実施した平成26年度～令和6年度遺跡発掘調査等事業(鳥取県補助事業名:三徳山重要遺跡緊急発掘調査事業)の報告書である。
- 2 調査地は、鳥取県東伯郡三朝町大字 神倉^{かんのくら}字後口山^{うしろやま}1175番地付近に所在する土地である。
- 3 本書中、三佛寺^{さんぶつじ}の漢字表記について、原則として宗教法人登記に基づくが、文化財名称について指定書及び告示等の表記に基づき「三仏寺」を用いている箇所がある。
- 4 本書中、組織名及び役職名は特記しない限り当時のものであり、現在は異なる場合がある。
- 5 本書中、「図1 名勝及び史跡三徳山の位置」には国土地理院発行の「数値地図50000(地図画像)」の複製「三朝町全図」(平24情複、第199号)を使用した。
- 6 事業の実施にあたっては、鳥取県地域社会振興部文化財局とっとり弥生の王国推進課、鳥取県埋蔵文化財センターの御指導、御協力を得た。
- 7 事業の測量については、アサヒコンサルタント株式会社、鳥取県埋蔵文化財センター及び立命館大学の協力を得た。
- 8 調査に伴う資料等は三朝町教育委員会で保管している。
- 9 本書は、1章は河中文正が、2～6章は山本義孝が執筆した。
- 10 調査に当たり、多くの関係者等から御協力をいただいた。

明記し深謝する。(順不同・敬称略)

神倉区 小鹿地域協議会

文化庁

鳥取県 鳥取県埋蔵文化財センター

宗教法人三佛寺

岡寺 良(立命館大学 准教授)

眞田廣幸(三朝町文化財保護調査委員会)

政門利昭

凡 例

- 1 方位及び座標値は世界測地系平面直角座標系Vによる。
- 2 レベルは海拔標高である。

本文目次

序

例 言 凡 例

本文目次 挿図目次 図版目次

1 章 調査に至る経緯と各年度の調査概要	01
1 過去の調査	01
2 三徳山歴史遺産調査	02
3 調査の目的と方法	07
4 調査体制	07
5 各年度の調査概要	09
(1) 平成26年度調査概要	09
(2) 平成27年度調査概要	09
(3) 平成28年度調査概要	09
(4) 平成29年度調査概要	09
(5) 平成30年度調査概要	10
(6) 令和元年度調査概要	10
(7) 令和2年度調査概要	10
(8) 令和3年度調査概要	10
(9) 令和4年度調査概要	10
(10) 令和5年度調査概要	11
(11) 令和6年度調査概要	11
2 章 位置と環境	15
1 位置	15
2 地形・地質と植生	15
3 歴史的環境	17
4 『伯耆民談記』に記載された山岳修験霊場としての姿	19
5 三徳山神倉の世界	19
3 章 湯地点の調査	23
1 湯地点の発見と調査経緯	23
2 地区設定	24
3 I 区の調査成果	25
(1) 磐座1周辺の遺構群	25
(2) 壇状遺構	31
(3) 19号集石（階段状遺構）	37
(4) 20号・21号集石（集石壇とサイトウ炉／修法壇）	38
(5) 22号集石（磐座2）	41
4 II 区の調査成果	42

(1) 礎石立建物 (26号集石／参籠大宿)	43
(2) 23号集石	48
(3) 24号集石	49
(4) 25号集石と階段状遺構	50
5 Ⅲ区の調査成果	55
(1) 概要	55
(2) 遺構各説	56
(3) まとめ	62
4 章 イケガナル地点の調査	63
1 イケガナル地点の発見と確認作業	63
2 調査経緯	64
3 調査成果	65
(1) 集石域の概要	65
(2) 石組遺構 1	67
(3) 石組遺構 2・3	72
(4) 石組遺構 4 と南尾根	75
(5) 方形集石壇	79
(6) 南側土塁南北トレンチとその周辺	81
5 章 湯地点・イケガナル地点調査の総括	87
6 章 考察	89
1 はじめに	89
2 各説	89
(1) 山岳信仰と巨石・磐座祭祀の問題	89
(2) 神霊依代としての石鉢の問題	93
(3) サイトウ (柴燈・採灯) 炉の問題	96
(4) 山中修行における宿の問題	98
(5) 雪穴 (氷室) の問題	102
3 三徳山神倉後口山遺跡をめぐって	105
(1) 基本認識の在り方	105
(2) 遺跡の性格	105
(3) 年代観	106

挿図目次

図1	名勝及び史跡三徳山の位置	01
図2	名勝及び史跡三徳山指定地	06
図3	後口山遺跡全体位置図	12
図4	「湯」地点概略図	13
図5	「イケガナル」地点概略図	14
図6	三徳山の地質構造と植生・信仰遺跡の関係	15
図7	三徳山を中心とする地形とその構成要素	16
図8	美徳山嶺概念図	18
図9	神倉地区を構成する要素	20
図10	冠巖裾推定宝殿跡	21
図11	湯地点の遺構配置と地区設定	24
図12	I区遺構配置図	24
図13	I区磐座1周辺遺構群のオルソ図	25
図14	I区磐座1周辺の遺構群	25
図15	磐座1前庭部	26
図16	磐座1前庭部の解釈	27
図17	磐座1前庭部のオルソ図	27
図18	磐座1前庭部集石	28
図19	磐座1前庭部集石解釈	28
図20	磐座1背後の集石	29
図21	磐座1背後の集石解釈	29
図22	磐座1背後集石3周辺オルソ図	29
図23	集石31	30
図24	集石31の解釈	30
図25	壇状遺構オルソ図	31
図26	壇状遺構図	32
図27	壇状遺構内サイトウ炉実測図	35
図28	壇状遺構内サイトウ炉解釈	35
図29	壇状遺構内サイトウ炉オルソ図	36
図30	19号集石平面図・側面図	37
図31	19号集石（階段状遺構）解釈	37
図32	20・21号集石平面図・断面図	38
図33	20号集石解釈	40
図34	21号集石解釈	40
図35	22号集石（磐座2）	41
図36	22号集石（磐座2）解釈	41

図37	Ⅱ区遺構配置図	42
図38	礎石立建物オルソ図	43
図39	礎石立建物実測図	43
図40	礎石立建物復元案	44
図41	礎石立建物南北トレンチ土層断面図	46
図42	礎石立建物内炉1オルソ図	47
図43	礎石立建物内炉1実測図	47
図44	礎石立建物内炉2オルソ図	47
図45	礎石立建物内炉2実測図	47
図46	23号集石オルソ図	48
図47	23号集石実測図	48
図48	23号集石解釈	48
図49	24号集石オルソ図	49
図50	24号集石実測図・解釈	49
図51	25号集石と階段状遺構（上面）と周辺部のオルソ図	51
図52	25号集石とその周辺部	51
図53	25号集石全体図	52
図54	25号集石中心部（25-1・25-2）	53
図55	25号集石中心部（25-3）	54
図56	Ⅲ区全体図	55
図57	1号集石オルソ図	56
図58	2号集石オルソ図	56
図59	3号集石オルソ図	56
図60	4号集石オルソ図	57
図61	5・6号集石オルソ図	57
図62	7号集石オルソ図	57
図63	8号集石オルソ図	58
図64	9号集石オルソ図	58
図65	10・11号集石オルソ図	58
図66	12号集石オルソ図	59
図67	13号集石オルソ図	59
図68	14号集石オルソ図	59
図69	15号集石オルソ図	60
図70	16号集石オルソ図	60
図71	17号集石オルソ図	60
図72	18号集石オルソ図	61

図73	イケガナル地点の調査のきっかけとなった地形図	63
図74	イケガナル地区集石域オルソ図	65
図75	イケガナル地区集石域線画	66
図76	イケガナル地区集石域遺構配置図	67
図77	石組遺構 1	68
図78	石組遺構 1 断面図	69
図79	石組遺構 1 解釈	71
図80	石組遺構 2・3 平面図	72
図81	石組遺構 2・3 縦断面図、石組遺構 3 横断面図	72
図82	石組遺構 2 復元案	73
図83	石組遺構 3 復元案	73
図84	石組遺構 2・3 断面図	74
図85	石組遺構 4 と周辺オルソ図	75
図86	石組遺構 4 平面図・断面図	76
図87	石組遺構 4 南北方向断面図	77
図88	石組遺構 4 復元案	78
図89	南尾根の付け根に設けられた方形集石壇オルソ図	79
図90	方形集石壇と周辺部	80
図91	方形集石壇解釈（オルソ図）	81
図92	方形集石壇解釈	81
図93	南側土塁トレンチ周辺オルソ図	82
図94	南側土塁周辺図	82
図95	南側土塁トレンチ北面西壁土層断面図	83
図96	南側土塁南北トレンチ南面西壁断面	84
図97	南側土塁の構造	85
図98	イケガナル地点・湯地点全体図	88
図99	龍良山頂の磐座	91
図100	「奈良山」ヒコソウ岩屋の構造	92
図101	岩屋前にサイトウ壇を設ける事例 1	94
図102	「奈良山」火頭尾根 A 地点遺跡	94
図103	「奈良山」火頭尾根 A 地点断面図	94
図104	五智如来曼荼羅板碑実測図	95
図105	岩屋前にサイトウ壇を設ける事例 2	97
図106	護摩焚岩から壇へ変化する事例	97
図107	基層修験（強力）墓地に伴うサイトウ炉の事例	97
図108	国境宿の構造	99

図109	国境宿の護摩焚岩	99
図110	今清水宿の構造	99
図111	今清水宿の大宿	99
図112	英彦山修験三季の峰入りルートと金胎両部の配置	101
図113	池ノ尾宿の構造	101
図114	奈良県天理市福住町室山の氷室土坑	102
図115	石川県月浦町の氷室	104
図116	大山寺南光院谷の氷室（雪穴）.....	104
図117	伯耆国峰の曼荼羅配置と諸霊山との関係	105

図版目次

写真1	『金峯山草創記』該当部分	17
写真2	奥之院蔵王堂	17
写真3	三佛寺最古の蔵王権現像	18
写真4	三佛寺蔵王堂正本尊	18
写真5	神倉のランドマーク的存在の「冠巖」	20
写真6	冠巖裾と人工平場	21
写真7	特徴的な三尊形式の神像	21
写真8	阿弥陀堂内如来像	21
写真9	阿弥陀堂内天部立像	21
写真10	大神（狼）地点の水源地	22
写真11	供物置き場	22
写真12	大神（狼）岩	22
写真13	調査前の湯地点	23
写真14	三徳山頂を背にする磐座1	25
写真15	磐座1 前庭部正面観	27
写真16	磐座1 前庭部東南方向から	27
写真17	夕陽が射し込み光輝く磐座1	28
写真18	磐座1 前庭部集石と磐座1の関係	28
写真19	磐座1 背後の状況	29
写真20	集石31正面観（西側から）	30
写真21	集石31側面観（北側から）	30
写真22	壇状遺構全景（西から）	33
写真23	壇状遺構全景（東から）	33
写真24	①北側裾の石列	34
写真25	⑧出入口の石組	34
写真26	⑨基壇出入口の石組	34
写真27	壇状遺構内サイトウ炉（北から）	36
写真28	入口部（南側）からみたサイトウ炉	36
写真29	斜めから見た19号集石（西から）	37
写真30	19号集石中央の階段部分	37
写真31	19号集石右側の円形石組（根巻石か）	37
写真32	20・21号集石側面観	38
写真33	19号集石（階段状遺構）と20・21号集石（石積基壇・サイトウ炉）の関係	39
写真34	20号集石全景	39
写真35	20号集石上面天端の石組	39
写真36	20号集石裾の状況（北から）	39

写真37	21号集石（東から）	40
写真38	21号集石中央のサイトウ炉中心部	40
写真39	22号集石全景（西から）	41
写真40	伐採後のⅡ区の景観（南から）	42
写真41	礎石立建物を中心としたⅡ区の景観（西から）	42
写真42	礎石立建物俯瞰（西から）	44
写真43	礎石 1	45
写真44	礎石 1 と周辺部	45
写真45	礎石 2 周辺	45
写真46	礎石 2	45
写真47	礎石 3	45
写真48	礎石 4	45
写真49	礎石立建物南北トレンチ全景（北から）	46
写真50	礎石立建物南北トレンチ北端部の土層	46
写真51	礎石立建物内南北トレンチ南端部の土層	46
写真52	南北トレンチ付近の礎石と根石	46
写真53	礎石立建物内炉 2	47
写真54	全体像を表した23号集石（南から）	49
写真55	23号集石（西から）	49
写真56	24号集石南西隅石	50
写真57	24号集石西裾部の状況	50
写真58	Ⅱ区階段状遺構	50
写真59	湯地点25号集石 25-1・25-2・25-3・25-4	52
写真60	湯地点25号集石全域俯瞰（南から）	54
写真61	Ⅰ区北斜面の集石群（北側より）	55
写真62	1号集石	61
写真63	2号集石	61
写真64	5号集石	61
写真65	7号集石	61
写真66	9～11号集石	62
写真67	13号集石	62
写真68	16号集石	62
写真69	17号集石	62
写真70	調査前のイケガナル地点	63
写真71	調査開始後の現地	63
写真72	コの字状に並ぶ石組	63

写真73	南側尾根に直行するトレンチの設定	63
写真74	谷頭での調査状況	64
写真75	石組遺構2の調査状況	64
写真76	南側尾根の調査状況	64
写真77	南側尾根南斜面の調査状況	64
写真78	主室周辺の状況（東から）	68
写真79	主室周辺の状況（西から）	68
写真80	主室周辺の状況（北から）	68
写真81	石組遺構1	68
写真82	断面1（北西隅）の石組状況	70
写真83	断面2（南西隅）の石組状況	70
写真84	断面3（東南隅）の石組状況	70
写真85	断面4（東北隅）の石組状況	70
写真86	石組遺構1の主室内（手前）と北側・西側斜面の石敷状況（東より）	70
写真87	主室内南西隅東石の状況	70
写真88	同部の復元案	70
写真89	石組遺構1・2中心部調査時の状況	71
写真90	大山南光院谷氷室（雪穴）内隅の石組	71
写真91	石組遺構3土層断面観察用畦	73
写真92	石組遺構2礎石1	74
写真93	石組遺構3礎石2	74
写真94	石組遺構3礎石3	74
写真95	石組遺構4調査風景（南から）	75
写真96	石組遺構4の主室「室」（東から）	75
写真97	断面部南側土塁石列の状況（北から南方向へ）	77
写真98	断面部石組遺構4 北側礎石周辺の石組①	77
写真99	断面部石組遺構4内 床面貼石②	77
写真100	断面部南側土塁礎石？（図面北側）	77
写真101	断面部南側土塁 土留石列	77
写真102	方形集石壇北西隅の積石状況	79
写真103	南側土塁北面トレンチ全景（北側裾から）	83
写真104	南側土塁北面トレンチ全景（東から全体を斜めに俯瞰）	83
写真105	南側土塁南北トレンチ頂上部【断面1】	83
写真106	南側土塁南北トレンチ北面【断面2】	84
写真107	南側土塁南北トレンチ南面全景（南側裾から）	84
写真108	南側土塁南北トレンチ南面土層断面	84

写真109	南側土塁部分全景（東から）……………	85
写真110	神仏分離以前は「大般若の鼻」とも呼ばれた熊野「花の岩屋」……………	91
写真111	「大般若の鼻」に寄り添う「王子の岩屋」……………	91
写真112	対馬龍良山頂磐座……………	91
写真113	対馬白嶽山頂の女岩……………	91
写真114	彦山四至東結界内の磐座に刻まれた種子……………	91
写真115	彦山四至北結界に相当する祓川内の磐座に刻まれた種子……………	91
写真116	奈良山ヒコソウ岩屋の磐座と広庭の遺構群……………	92
写真117	ヒコソウ岩屋の石鉢……………	92
写真118	ヒコソウ岩屋磐座広前の集石遺構……………	92
写真119	ヒコソウ岩屋のサイトウ壇……………	94
写真120	修法壇南側結界護法の依代として据えられる石鉢……………	94
写真121	山岳霊場英彦山の秘窟 般若窟（玉屋窟）内の石鉢（八角石）……………	95
写真122	岩屋の依代として石鉢を据える事例……………	95
写真123	岩屋の依代として石鉢を据える事例……………	95
写真124	入定窟内の依代として石鉢を据える事例……………	95
写真125	彦山大行事社の石鉢……………	95
写真126	石鉢を中心に据え周りに石組を設ける祭壇の事例……………	95
写真127	現代の柴燈護摩（京都市聖護院）……………	96
写真128	現代の柴燈護摩（滋賀県飯道寺）……………	96
写真129	ヒコソウ岩屋上段祭祀場のサイトウ炉……………	97
写真130	護摩焚岩上に設けられたサイトウ壇の事例……………	97
写真131	檜原山金剛岩屋前に設けられたサイトウ壇……………	97
写真132	英彦山大河辺墓地サイトウ炉……………	97
写真133	自然石積基壇上に切石でサイトウ壇を改修した事例……………	98
写真134	炉の中心に設けられた納入坑……………	98
写真135	宝珠型の陽石……………	98
写真136	四角錐型の陽石……………	98
写真137	都祁氷室竪坑……………	102
写真138	都祁氷室推定氷池跡……………	102
写真139	復元された都祁氷室……………	103
写真140	三徳谷千軒原の雪穴……………	103
写真141	雪穴入口の石積……………	103
写真142	大正年間の大山寺の氷室（雪穴）……………	104
写真143	南光院谷氷室室内四隅の石組状況……………	104
写真144	イケガナル地点石組遺構南西隅の石組状況……………	104